

「できる（Can-do）」ということの意味を問い直す

例えば「ピアノを弾けるようになりたい」と切望している人に対し、「ピアノを弾ける能力を身につけなさい」と言っても何の意味もないでしょう。しかし日頃我々は、「読解力をつけなさい」「コミュニケーション能力を養いなさい」というようなことを、ついつい言ってしまっていないでしょうか。

「できる」とはどういうことなのか、「できる」ようになることを支援するには何が必要なのかについて、参加者同士の議論を通じて考えていきます。

キーワード：コンピテンス、パフォーマンス、知識、スキル、態度

講師 **宇佐美 洋 氏**

日程	内容
第1回 2025年 2/3（月） 19:00～20:30	「行動」と「能力」 「ピアノが弾く」という「行動」に「～ことができる」という文末表現を付したからといって、それが「能力」の記述になるわけではありません。「行動」と「能力」の違いについて考えます。
第2回 2/10（月） 19:00～20:30	「できる」ためには何が「できる」必要がある？ 自分自身にとってある程度「できる」と思っていることを取り上げ、それがなぜ「できる」のだろう、ということをお話し合うことによって、「能力」について自分なりの理解を形成していきます。
第3回 2/17（月） 19:00～20:30	教育活動の「目標」とは？ 教育活動は多くの場合、何かを「できる」ようになることを目指します。「できる」ことの意味について考察してきたことを、教育活動の「目標」の設定へとつなげていくにはどうしたらよいかについて考えます。
第4回 3/3（月） 19:00～20:30	教育活動を評価する 前回までの活動の振り返りを通じ、みなさん自身が携わっている教育活動にどのような価値があるのか、そしてその価値を確認し、実際に周囲の人々と共有していくにはどうすればよいかについて考えます。

※各回にはグループワークが含まれることがあります。

講師プロフィール

宇佐美 洋 氏

東京大学大学院 総合文化研究科 言語情報科学専攻 教授

国立国語研究所勤務を経て、2015年より東京大学教員。国語研究所時代、同一の日本語作文に対し複数の日本語教師に添削を依頼したところ、評価の視点があまりに多様であることに衝撃を受けたのが研究の始まりです。評価の結果ではなく、それを支える個人の「価値観」や「態度」に着目すべきと考え、研究を進めています。



主要著書・論文：

『「非母語話者の日本語」は、どのように評価されているか -- 評価プロセスの多様性をとらえることの意義』(ココ出版, 2014年, 単著)

『「評価」を持って街に出よう -- 「教えたこと・学んだことの評価」という発想を超えて』(くろしお出版, 2016年, 編著)

「日本語教育人材の「資質・能力」育成に関わる諸概念を再考する」『言語・情報・テキスト』26号(2019年, 単著)

「育成可能性からみる「態度」概念の再整理--「日本語教育人材に必要な態度」をめぐって--」『日本語教育』181号(2022年, 単著)

受講方法

Zoomによるオンラインでの受講

※開催前日までに申込者のアドレス宛に受講URLをお送りいたします。

セミナー終了3営業日以内にアーカイブ配信を行います。1週間程度アーカイブ動画をご覧いただけます。当日ご都合が悪くなった場合や、繰り返し学習されたい場合等にご活用ください。

受講料

9,000円(税込) ※1講座のみお申込み: 2,500円(税込)

申込期限

2025年1月30日(木)

申し込み

<https://osakaymca.ac.jp/jle-center/2408.html>



注意事項

- ◆申し込み人数が5人未満の場合、開講しないことがあります。
- ◆講座はPCでのご受講を推奨します。Wi-Fi環境など高速通信が可能な電波の良いところでご参加ください(通信料は受講者負担)。
- ◆講座の録画・録音等のご遠慮いただいております。
- ◆お一人様、一媒体でのご参加をお願いします。